

名事研=ユース

NO. 143

発行 平成24年2月24日

平成24年1月20日（金）、名古屋市教育センターにおいて第17回名古屋市立小中特別支援学校事務職員研究大会が行われました。「名古屋の学校事務をデザインする—つながり 高めあい 進めよう—」という大会テーマのもと、区研究報告と「学校間連携の推進」をテーマとしたシンポジウムが行われ、これからの学校事務のあり方について考える会となりました。

シンポジウムでは、県大会分科会発表報告、学校間連携実践発表に続き、パネルディスカッションが行われ、学校間連携について課題・今後の方向性が広く示されました。

今回の名事研ニュースでは、研究大会の様子とともに、名古屋の学校事務のグランドデザインや平成23年10月28日（金）に行われた愛知県小中学校事務職員研究大会（以下県大会）での分科会発表の様子についてもお知らせいたします。

区研究報告

～ 千種区の実践と研究発表 ～

千種区は、1年目から4年目までの経験年数の浅い事務職員を中心として、年末調整事務の留意事項など、他校の状況を知ることが目的に研究を進めてきました。その中で多くの会員が年度末・年度初めに特に不安を感じていることが判明したため、その不安を解消し、適切な事務処理ができるように研究に取り組みました。

研究にあたって、まず何が不安かを話し合い、不安の解消のために、「異動関係事務の流れを把握する」「事務処理の全体像を明確にする」「教職員向け給与等資料を作成する」ということを目標に、グループごとに分かれて研究を進めました。

関係事務を把握するため、異動事務を分類した上で、順序立てて作業ができるようにして、異動事務処理カレンダーを作成したり、事務処理の全体像を明確にするために、処理すべき事項を忘れずできているかを整理した事務処理チェックリストを作成したりと、進捗状況の整理や引継ぎの資料となることを意識した資料作りが行われました。

教職員向け資料は、既存のものを持ち寄り、専門的用語への偏りや文書量が多い等の意見を検討して、わかりやすさに視点を置いて共通の資料を作成しました。

発表の中では、「事務のえんぴつさん」「分度器先生」などのキャラクターを使ってありがちな困りごとを寸劇風に仕立てるなど、客席の参加者にも分かりやすいよう工夫を凝らしていました。

これらの研究は、グループ単独の研究を相互に関係させるところまでいかなかったこと、実際の年度末に資料を利用し、問題点を整理・改善することが今後の課題ですが、情報を整理し、作成した研究資料を活用できるようにしていくことで、不安軽減をさらに進め、成果を今後につないでいけるよう会員同士連携して取り組みたいと報告をまとめました。



～ 瑞穂区の実践と研究発表 ～

瑞穂区からは、瑞穂区で長年の伝統になっている、「ひとりいち実践」を中心に実践報告がありました。「ひとりいち実践」とは、会員それぞれが、関心にあることや疑問に思っていることなど身近に関わっていることを、区内の事例や情報を持ち寄り報告することによって情報を共有し、事務の効率化を図る個人研究のことです。研究集録にある研究報告を元にこれまでの経緯の説明があり、別に配布された資料で、昨年の実践や、集録に掲載できなかった実践について報告する形で進みました。

去年は個人研究だけでなく、区全体で「異動時における引継ぎマニュアル」の作成や、マイスクールプランにかかる事業計画を予定月・学年別に一覧表にしたものを各校が持ち寄って予算の使われ方などの研究にも取り組みました。教職員も事務職員もこの学校でも同じ流れで統一した方がよい事務処理と、特色ある取り組みを大切にする学校事務があることや、他の学校の予算などをみることで自分の学校を振り返ることができたと報告がありました。個人研究では、「標準運営費の小中や規模による格差問題」「やってよかった修理・工事などの具体例」「発注依頼書について」「事務処理変更点等年表」の実践が報告されました。今回報告されなかった実践についても、集録などに掲載されており読むだけでも興味深いものでした。

最後に、学校間連携で仕事を正してもらい、区の事務研で仕事をよりよくする。過去の状況を聞かれても事務研の資料がすぐ出せるといった感想を述べられ、中でも瑞穂区が大好きですという言葉が印象的でした。



「名古屋の学校事務のグランドデザイン」～名古屋GD～

「子どもたちの輝く未来のために、新たな学校事務を実践する」ため、名古屋の学校事務のグランドデザイン（以下「名古屋GD」）を策定しました。

4月の定期総会において「名古屋GD」の全体像を示し、「めざす学校事務像」「めざす学校事務職員像」を実現するための3つの戦略と年度ごとに目指す目標と年次テーマを打ち出し、会員全員が連帯感を持って取り組むことになりました。

今年度の目標と年次テーマは「学校間連携の推進」とし、学校間連携の推進によって学校事務の適正化・平準化、安定性の確保ができるよう目指しました。目標の実現に向けて名事研・区事務研・学校間連携・名事研会員がそれぞれのような行動を起こせばよいのか、担当ごとに取り組み内容等を示した「名古屋GD」行動計画を作成しました。

行動計画に基づいて、研究部は、県大会において学校間連携に関する研究成果の発表、研修部は学校間連携の運営に必要な中間層の資質向上を図った「ステップアップ研修」の実施、情報部では統一様式による学校事務の平準化を目指した予算決算書作成ファイルの作成等の事業を進め、事務局が各部の取り組みを総括し、進捗管理と専門部および区事務研究会との連絡調整を行っています。

市研究大会では、会員および対外向けの名古屋GDの計画についてデザインしたクリアファイルを配布し、PRに努めました。



シンポジウム

学校間連携が始まって3年目となり、さまざまな成果とともに課題も見えてきました。現状や今後の方向性を共有し、これからの学校事務のあり方や学校間連携を推進していく次の一步を踏み出すことをねらいとしてシンポジウムが行われました。初めに県大会分科会報告（内容は4ページの「分科会参加報告」を参照）、学校間連携の実践報告、最後に3名のパネリストをお迎えしてパネルディスカッションという構成で進行了しました。

学校間連携実践報告 ～伊勢山中・白山中ブロックの報告～

伊勢山中・白山中ブロックより、経験の浅い事務職員の支援を中心に、次の4点を柱にした実践について報告がありました。

1 経験の浅い事務職員のフォローアップを全員で行う。

ブロック内で担当者を決め、連携で集まる日以外でも普段から相談できるよう、先輩事務職員から電話やメールで連絡して、すぐに仕事に取り掛かれるような環境づくりを心がけている。

2 ブロック内の学校状況をお互い把握し、多くの事例を学びあい、事務の適正化を図る。

スクールカレンダーや学校間連携だよりを作成し、他校の様子等を職員に伝え、連携が事務職員だけに留まらないようにしている。また、イントラネット上で共有フォルダを利用した情報の共有化を行い、自校では該当しなかった説明会の資料、未解決事例を関係課に問い合わせた結果等を掲載している。

3 相互点検・確認を行うことで、誤りを是正し、今後に活用する。

3名を1チームとして、通勤手当チームなどをつくり、年間を通してそのチームが同じ手当について点検することで、専門性を持たせている。また、点検した書類は重複して確認しないように確認票をつけている。

4 「教員の子供と向き合う時間の確保」につながる校務改善を研究する。

経験年数や学校規模により取り組める内容は限られるが、どんな条件が揃えばこれまで以上の仕事量をこなせるか議論しながら、連携で助け合って就学援助事務に全員で取り組んでいる。

最後に、今後はただ連携するだけでなく、連携によって生まれた余裕や時間を学校に還元できるように実践を重ねていきたいと、意欲的な発言で発表を終えました。毎年、連携メンバーが変わる中、継続性を高め発展させることは難しいです。しかし、発表されたように柱を設定することで、それを少しずつ可能にできるのではないのでしょうか。



パネルディスカッション

パネリスト 畠村 直樹 氏 (学校事務支援センター 所長)
 広瀬 帆曜 氏 (名古屋市立笹島小・中学校 校長)
 中村 紀子 氏 (名古屋市立前津中学校 事務長)
コーディネーター 内藤 洋子 (名事研 副会長)

学校間連携について、3名のパネリストの方が、コーディネーターの質問に対して、それぞれの立場から発言をいただく形で進行しました。

①【今年度の学校間連携の取り組みから、成果と課題、そして改善の方策について】

畠村氏 連携ブロックの訪問では、状況把握ができた。意見集約を行い、ホームページを開設して、情報発信を行うこともできた。課題としては、全ブロックの訪問は時間がかかったこと、意見集約が難しかったこと。ただ、訪問は有意義であり、センター業務の根幹としたい。拠点校会議では、情報交換ができた。課題は、55ブロックは多すぎて十分な意見交換ができない。また、タイムリーな情報発信ができない。これについてはホームページに掲載するなどしたい。センターと連携組織が相互に補完しあえる組織でありたい。

広瀬氏 本日の連携の発表を聞いて、学校間連携が目指す方向に近付いているのではないかと感じた。これからはチーム力の時代。基本的な職務は共通化していくことを目指すべきではないか。学校代表として連携を行う意識が必要。連携のキーワードは「情報の共有」だと考えている。ここから改善策が考えられ、学校支援につながるのではないか。

中村氏 書類チェック等の連携での取り組みは、情報の共有もでき有意義であった。少経験者育成では、ノウハウの共有、知識の再確認ができ、結果全体のレベルアップの効果があつた。学校の校務改善という点から、多職種の視点を取り込むことも必要。支援センターに学校事務職員が3人入ったことで、現場の声が直接届くようになった。3つの課題として、「事務処理の効率化を進め、時間を生み出す」「支援センターと学校間連携の関係性をはっきりする」「我々の意識改革」を行う必要がある。



②【連携の今後について】

畠村氏 24年度の最重要課題は書類の相互点検による平準化。このような取り組みから、学校間連携の一つの形が見えてくるのでは。効率性・経済性から、経理事務の削減は喫緊の課題。教材教具の一括支払いの拡大、委託業務の取りまとめなども検討中。校内でも効率的な発注システムを検討して欲しい。職能別の研修体系も提案したい。将来的には、校務支援システムのようなものを構築していきたい。事務研の研究成果を連携で生かせるような仕組みができると、学校事務の進化に寄与できるのでは。

広瀬氏 新しい制度はなぜ作られるのか。それはその時代が必要としているから。学校間連携は時代の流れをもとに、これから必要となる学校事務職員の役割の答えを支援センターと見つけて欲しい。教育サポートネットワークをつくり、その資源と学校をつなげる「ハブ役」を担い、知的財産を身に付けて欲しい。それによって学校に最低1人はいなくてはならない存在になっていただきたい。まずは事務処理システムの最適化から。

中村氏 今後、学校事務の課題を解決し、個々の取組みの成果を共有して名古屋市全体の学校事務がよくなっていくためには、学校、学校間連携、学校事務支援センターに加えて、区での単位が重要になってくると思う。それぞれが役割をもって、強気に連携しながら組織力で質の高い学校事務を創造していくことが必要。関係諸団体との連携強化や仕組みが機能するための条件整備とともに私たち自身の意識を変えていくことが大事。

③【事務職員の明日の糧となるような言葉をそれぞれの方から】

中村氏 学校に何が必要かは、学校現場にいてこそわかる。新しい取り組みは大変だが、楽しさもある。みんなで頑張る名古屋の学校事務の明日をつかっていきたい。

畠村氏 プロジェクトチームの3名は市教委各課と的確に連絡調整を行っており頼もしい。みなさんからのご意見お待ちしております。

広瀬氏 共同実施など、少人数で効率よく学校事務を行うということに対抗するには、事務職員の新たな役割について、名古屋から発信していくこと。好きな言葉に、「危機感こそ進化の原動力」というのがある。大変だが、ぜひバージョンアップして、みなさんとつくり上げていきたい。



パネリストのみなさんの、学校間連携で名古屋の学校をよくしていきたいという想いが伝わりました。名古屋の学校事務職員が目指す目標について確認する会となりました。

平成23年度 愛知県公立小中学校事務職員研究大会第3分科会参加報告

「学校事務新時代」今、名古屋が変わる」ー進化（深化）する組織とシステムー

平成23年10月28日（金）

蒲郡市民会館

発表担当 名事研研究部

助言者 三重県教育委員会福利課・給与室小中学校給与グループ主幹 倉田 幸一氏
豊橋市教育委員会教育部教育政策課事務指導主事 小林 雅代氏

今年度の愛知県公立小中学校事務職員研究大会の第3分科会は、名古屋支部が担当となり、名事研研究部が発表を行いました。

初めに、名古屋の学校事務についての現況報告が行われました。その中で、今年度新設された学校事務支援センターの主な業務や取り組みの報告が行われました。

次に、現状報告の中であがった問題などを解決する手立てとして、学校間連携を改善していくために必要なことの提案が行われました。この提案では、現状の学校間連携にどのような問題点があるのか、その問題点を学校事務職員の視点から洗い出し、それを分類・整理し、「学校事務職員の意識改革」「学校と学校事務支援センターの関係性構築」「制度の見直し」の3つの観点から考えています。



続いて、学校事務支援センターとの関係の中でできる新しい取り組みとして、「連携校・拠点校・学校事務支援センターのラインの確立」「拠点校同士のつながり」「学校間連携からのアプローチ」の3つの観点から提案が行われました。

提案を受けて、倉田氏からは、あとは実践あるのみとして、三重県の実践を例に挙げ、大きな目標を持つこと、共同実施の目的を他の職員に理解を求める必要があること、兼務発令の効果などについてご発言がありました。小林氏からは、名古屋の強みとして、名古屋市内のみの異動のため、名古屋の学校事務についてずっと考えていける、人数の多さは多様な意見につながると捉えるなど、政令指定都市であることをメリットとして考えていくことについてご発言いただきました。その後、会場とシグナルカードを使っての意見交換を行い、今後の研究を進める参考となる様々な意見が出ました。

休憩を挟んで、助言者のほかに天白養護学校事務長の松岡美晴氏も加わり、「指導体制の組織化」、「学校事務の組織化」をテーマとして意見交換会が行われました。1つめのテーマで、○それまでの研究会活動と違い、職務として他校の書類をみたり、見学したりできるようになった利点、その学校間連携の良さを生かしていくこと、○連携していくことの大切さ、その連携組織での役割分担について、○学校事務職員の職責や段階に応じた役割について、意見が交わされました。

2つめのテーマについて、○拠点校学校事務職員の役割と学校間連携の実践、○組織的に学校事務を推進していくためにも事務長に期待すること、事務長の役割、○事務長を中心とした組織力について、意見が交わされました。

最後に、司会の研究部長がまとめの発言をし、終了となりました。助言者の方々は、研究部の提案を高く評価してくださったと思います。また、それぞれの方の、ご発言から今後我々が研究・実践を進める上での一つの方向を示され、力強い一歩を踏み出す活力となる会となりました。



編集後記

今回の名事研ニュースは、大会が半日になったことに伴い、大会の様子だけでなく名古屋GDの内容や県大会発表の様子などを掲載しました。どのようなページ構成にすれば、会員の皆様が読みやすいかを考えながらページ作成をいたしました。今後とも名事研活動にご協力をお願いします。